

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	15-128	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>The Cedar Project: resilience in the face of HIV vulnerability within a cohort study involving young Indigenous people who use drugs in three Canadian cities.</p> <p>The Cedar Project:カナダ3都市土着の若年ドラッグ使用者を対象としたコホート研究における、HIV への精神的抵抗力(resilience)調査</p>		
執筆者		
Pearce ME, Jongbloed KA, Richardson CG, et al; Cedar Project Partnership.		
掲載誌		
BMC Public Health. 2015 Oct 29;15:1095. doi: 10.1186/s12889-015-2417-7.		
キーワード		PMID
現地の若者、精神的抵抗力、心的外傷、HIV・HCV		26510467
要 旨		
<p>目的：植民地時代、カナダの子供たちは強制的に学校に住まわされ、元の共同体との軋轢に苦しんだ。その影響は今も残り、現地の若者は違法ドラッグの使用頻度が高く、HIV や HCV に感染しやすい。地域との繋がり、援助要請、過去または生活での心的外傷、ドラッグや性関連のリスク、精神的苦痛は現地の若者の resilience(逆境への精神的抵抗力)に影響していると考えられるため、調査した。</p> <p>方法：カナダの British Columbia 州の 3 都市に土着する違法薬物使用若年者のコホートである Cedar Project の参加者を対象とした。Resilience(精神的抵抗力)を Connor-Davidson Resilience Scale (CD-RISC)、幼少時の虐待を Childhood Trauma Questionnaire (CTQ)にて、精神的苦痛を Symptom-Checklist 90revised (SCL-90-R)にて測定した。線形重回帰混合効果モデルを用いてこれらの変数が resilience の変化(2011 年から 2012 年)に及ぼす影響を調べた。</p> <p>結果：すべての質問票に答え、かつ縦断的に CD-RISC を観察できた 191 名を解析対象とした。開始時の平均 resilience スコアは 62.04 で、男女差は無かった(p=0.871)。高い resilience スコアと関連していたのは次の項目であった：「伝統文化によく触れている家庭で育つ」(B=7.70,p=0.004)(※B=回帰係数と思われる)「家庭で伝統的な言語を使用する」(B=10.52,p<0.001)「伝統的な言語の話し方を知った」(B=13.06,p=0.001)「最近伝統文化に良く触れている」(B=6.50,p=0.025)「最近薬物・アルコール中毒の治療を受けようとした」(B=4.84,p=0.036)。一方、低い resilience スコアと関連していたのは次の項目であった：「小児期の重大な感情的無視」(B=-13.34,p=0.001)「コカインの日常的使用」(B=-5.42,p=0.044)「性的暴力を受けた」(B=-14.42,p=0.041)「飲酒による記憶喪失」(B=-6.19,p=0.027)。</p> <p>結論：本研究対象者の現地の若者は社会への適応にあたり、多くの困難に直面している。しかし、文化的な基盤が緩衝材として働き続け、HIV や HCV を含む深刻な健康被害から現地の若者を守ることに一役買っているようである。</p>		